

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503510		
法人名	医療法人中山会		
事業所名	グループホーム夏桜 1階 はる風		
所在地	札幌市厚別区青葉町16丁目2-26		
自己評価作成日	令和2年9月10日	評価結果市町村受理日	令和2年11月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigvosyoCd=0170503510-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和2年10月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> 職員は、利用者を人生の大先輩として敬い、尊厳を遵守した支援に努めている。 利用者本人のできるごと、やりたいことに注目し、本人本位のケアプラン作成に取り組んでいる。 日課に、歌、演歌体操、嚙下体操、口のエクササイズ等の活動を取り入れている。 家族の来訪や面談時に、生活の様子や変化を詳細に伝え、意向や要望を活かした支援に努めている。 虐待・身体拘束・不適切行為等対応マニュアルと接遇に対する遵守事項を唱和し、実践に繋げている。 地域の一員として、地域行事へ参加し、住民との良好な関係が続いている。 地域のボランティアを導入し、事業所行事や災害時の協力体制を構築している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「グループホーム夏桜」は、木々が見渡せる自然豊かな地域に立地している2ユニットの事業所である。2階建ての共用空間は明るく開放感があり、居間や談話コーナーでゆったりと寛げるよう環境を整えている。開設16年目になり、事業所として町内会の総会に参加し、また地域福祉推進会議の出席で、地域の活動を十分に活かしながら例年には大きな催しに参加したり、住民やボランティアの来訪につながっている。事業所内でコンサートをを行い、後の茶話会は住民との交流の場になっていたが、今年は新型コロナウイルス感染防止から内部での楽しみ方を工夫している。外出が難しい状況から、利用者が好きな曲を選んで皆で歌ったり、運動やレクリエーション活動に力を入れている。特に食事づくりで、参加して食べる楽しみごとの場面作りを積極的に工夫している。日々管理者は職員が向上心が持てるよう学びと働く環境に配慮している。申し送りやカンファレンス時に、理念の方針に基づいた具体的なケアの内容を唱和することで常に意識でき、利用者の自立性を支えながら思いに沿う、良質のケアにつなげている。また介護計画も詳細な記録で見直し、個別ケアに取り組んでいる。今後、玄関前の広場に仮設プレハブを組み立て、家族とゆっくり話し合う場づくりを検討しており、コロナ禍の中でも可能な限り対応している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階はる風)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は、事業所理念を毎月のカフェで唱和し心得ている。また、年度ごとに部署目標を策定し、ユニット毎に評価した後に輪番で発表している。	事業所理念をパンフレットにも載せて周知し、基本方針に沿って日々実践している。部署目標は年に4回評価し、利用者視点の業務プロセスに地域との良好な関係を継続する内容が明記しており、見直す際にも理念に触れて確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の総会、定例会には事業所として出席している。また、町内の行事にも利用者と一緒に参加し、ホームの行事や定期訪問等の協力を受けているも、今年度は実施されていない。	昨年も町内会総会への参加や地域福祉推進会議に出席し、地域主催の盆踊りやコンサートなどに利用者也出かけて住民と交流している。今年はコロナウイルス感染防止で町内会からの回覧、また事業所の広報を送付し、情報を交換している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で認知症事例検討会を行っている。町内行事やホームの行事への参加で相互関係が構築されているも、今年度は実施されていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに開催される年間テーマに沿って勉強会を行っている。また、認知症介護の事例検討や身体拘束の実情について報告や話し合いを行い、サービス向上へと繋いでいたが、今年度は実施されていない。	年間の会議テーマをもとに意見を交換しているが、今年はコロナ禍から書面会議となっている。職員のピアノ演奏などの行事内容や内部研修、災害時の対応について議事録を作成し、報告書として全家族にも送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の中で、地域包括支援センター職員にホームの実情やケアサービスの取り組みを伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。理解できない点や困ったときには、市役所に直接出向いたり、電話等で相談している。	今年は主に電話で変更届などを確認している。行政より送られてくる情報を把握したり、市のアンケート調査に協力し、事業所計画や災害時の対応について答えている。生活保護担当者とは、その都度の連絡で連携しながら行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関する指針の中に、禁止の対象となる具体的な行為を示したマニュアルを掲載している。身体拘束適正化委員会が開催する研修の中でも正しく理解するよう取り組んでいる。安全のために玄関を施錠している。	事業所内に身体拘束適正化委員会を設置している。役員で定期的な会議を開き、職員は内容を把握している。内部研修ではマニュアルを用いて声かけや対応を振り返りながら具体的に学んでいる。コロナ過で利用者がストレスにならないよう、見守りやレクリエーション活動で緩和している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝の申し送りの中に、法人虐待防止マニュアルと接遇遵守事項の唱和を取り入れている。各ユニットに虐待防止委員を設置して勉強会を開き、ホーム内での虐待防止に努めている。		

グループホーム 夏桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階はる風)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修の中で、成年後見人制度を学ぶ機会を作っている。現在、各ユニットに成年後見人制度を利用している利用者がいるため、関係者との連携を強化している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際は、重要事項説明書、個人情報保護の取り扱い、医療連携体制と重度化した場合の対応等を説明して理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍により面会の制限をしているため、家族等の意見や要望を電話や決められた場所等で聞いている。その内容をカンファレンスや個人ノートに残し、それらを運営に反映させている。	来訪時に介護計画の意向も聞いているが、今年はコロナ禍のため電話や玄関内で話し合うことが多い。オンライン活用が家族に喜ばれているので今後も進め、また利用者ごとのお便りでは暮らしの様子を詳細に伝えたいと考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンスの中で、運営に関する職員の意見や企画・提案を聞く機会を設けている。また、年2回、職員の個別面談を実施している。必要に応じて率直な意見を聞くように努めている。	全体会議で市からの感染症に関する情報の共有や研修を行い、両ユニットの利用者の状態も把握している。またユニット会議では主にケアやプランの見直しで意見を交換している。管理者は業務の中で職員の意見や個別の相談に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、SUSシートを導入し、管理者や職員個々の努力や勤務状況を把握し、給与水準ややりがい等、一人ひとりが向上心を持って働けるよう労働条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、年間研修計画を策定し、働きながらトレーニングしていくことを進めている。資格取得に向けて法人内外の研修を受ける機会の確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、同業者との集まりに参加し情報交換に努めている。職員は、厚別区グループホームの合同研修を通じて、サービスの質を向上させるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階はる風)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談を行い、困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の申し込みから、サービスの利用を開始する段階で、家族が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、安心できる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極めるよう努めている。必要時には、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に掃除、洗濯、台所等の家事を行い、暮らしを共にするもの同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にしながら、毎月の家族便りに写真を同封したり、電話や固定の場所で様子を伝えている。必要な時は、距離を置いて面会をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により面会の制限をしているため、不要不急の面会や外出は実現されていないも、手紙や電話等の取り次ぎの支援に努めている。また、オンライン面会の実現を進めている。	昨年は友人、知人の来訪も得られたが、コロナ禍のため電話や手紙で交流が温められるように支援している。外出が難しいので、歌、塗り絵、ドリルなどの場面作りで利用者のできる面を支え、楽しめるように対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々、利用者同士の関係の把握に努め、座席の工夫、レクリエーションの活動内容に配慮する等、孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階はる風)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移行先には、情報を提供している。また、サービスが終了しても、訪問する等これまでの関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話を通して、希望や意向の把握に努めている。困難な場合は、表情や行動を注視して本人本位に検討している。	会話や表情から把握した意向を日々のケアや介護計画に反映させている。課題分析表とセンター方式のシートを活用しているが、本人の嗜好などの変化が記録として少ないように見受けられる。	センター方式のB-3シートに変化などを具体的に追記し、嗜好、趣味、暮らしの習慣など、現在の思いを介護計画書1表に記入し、計画につなげるような工夫に期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、ケアプラン説明時、サービス担当者会議等で、今までの生活を把握できるように努めている。移行時には、情報提供書を依頼している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンス、モニタリングで話し合い、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の希望を聞きながら、担当者が中心にカンファレンス等で職員の意見を集約し、現状に即した介護計画を作成している。	短期目標に沿って実施内容を記録し、3か月ごとに評価を全員で行い、カンファレンスで最終的に確認して介護計画を更新している。今回、日々の記録を新しい書式に変えてチェック項目を多くし、行動・状態・訴え等の欄に変化も記載している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践等を、暮らしのアセスメントシートに記入し、職員間で情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応して、関連機関等と連携しながら、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会、青葉福祉推進協議会、寿楽会、特養等の地域資源を把握し、本人の力を発揮しながら豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族等の希望を大切に、母体協力医療機関による訪問診療、訪問歯科等を利用する一方で、長年のかかりつけ医への受診同行や、情報を提供し、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医や専門的な他科受診は、ほぼ事業所に対応し、主治医に電話の相談で薬局から薬を届けてもらう柔軟な対応もある。受診記録は往診と通院に分けて利用者ごとに記録し、経過を共有している。	

グループホーム 夏桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階はる風)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日常のかかわりの中でとらえた情報や気づきを、訪問看護師や法人の外来看護師に相談し、個々の利用者が適切な治療を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時は、安心して治療できるように、また、早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて面会を多くし、家族との情報交換にも努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化した場合の対応に関する指針」を説明し、同意を得ている。早い段階から重度化した場合や終末期のあり方について話し合いを行い、事業所でできることを説明しながら共有している。関係機関との連携に取り組んでいる。	利用開始時に医療連携体制や重度化対応方針を文書で提示し、看取りは難しいことも説明している。状態の変化から食事が摂れない、またベッド上の生活が続く場合は、意向に沿って入院や施設入所について話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修では、利用者の急変や事故発生時に備えて学んでいるが、応急手当や初期対応の訓練の実践は行っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、夜間を想定して、避難訓練を消防署や地域住民の協力を得て実施しているが、今年度は、事業所のみで取り組んでいる。地震時、水害時の避難訓練も実施している。	昨年度は住民の参加も得て火災想定避難訓練を実施している。今回はコロナ禍から事業所内で水害、地震を想定した訓練も行い、ケア場面での対応や避難方法を確認している。災害時には多くの地域住民が駆けつける協力態勢もある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎朝の申し送りで、接遇に関する遵守事項と虐待防止マニュアルを唱和し、実践に繋げている。また、身体拘束適正化委員会の中でも検討している。	「敬語を使う」「大声を出さず耳元で話しかける」「指示命令口調を使わない」この3つを徹底している。利用者の個人的な話は居室でするように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誕生日の献立や洋服選び等は、本人から希望を聞いている。言葉で表現が難しい利用者には、表情や動作から読み取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの気分やペースを大切にし、本人の希望に沿って過ごすことができるよう取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選び、月1回の訪問理美容や化粧等その人らしいおしゃれができるよう支援している。		

グループホーム 夏桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階はる風)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえ、食卓拭き、コップに水入れ、配下膳等一人ひとりの力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立作成と食材の仕入れは外部に委託している。誕生日は4種類のお楽しみメニューを選ぶことができ、敬老会には弁当を取り寄せることもある。事業所で収穫した野菜も味わい、利用者は食事の下ごしらえに参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立表で栄養バランスを確保している。食事・水分の摂取量はシートに残し、過不足を調整している。一人ひとりの状態や力に応じて食事介助をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の指導の下、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを毎食後に取り組んでいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。排泄の失敗や誘導の時は、個々のプライドを大切にしている。	排泄チェック表を用いて排泄パターンを把握し、支援を行っている。基本的に日中はトイレでの排泄だが、夜間には眠りを妨げないよう利用者の状況に応じた支援をしている。トイレ誘導の際はプライバシーに配慮した声かけをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、朝食前の牛乳、ヨーグルトや飲水量の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調を確認して、2～3日おきに入浴している。タイミングが合わないときは、時間をずらしたり、声掛けに工夫して、気分良く入浴できるように努めている。入浴を楽しめるよう会話の工夫もしている。	利用者の体調や状況を見ながら、2～3日おきに入浴をしている。浴槽に浸かるのが難しい場合はシャワー浴にて対応している。好みの入浴剤を選んでもらうなど、入浴を楽しめるような工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息の声掛けや、夜間寝つけないうきに話を傾聴したり、居室の環境を整える等、安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬情ファイルを整備し、薬の目的や副作用、用法や用量については、理解するよう努めている。投薬後の経過を観察し、情報を共有するよう取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や力を活かした役割、楽しみごと等を支援して、一人ひとりが張り合いや喜びの日々を過ごせるよう取り組んでいる。		

グループホーム 夏桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階はる風)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	例年は、家族や地域の人々と協力しながら年4回の外出行事を開催している。地域の盆踊りやコンサート、バーベキュー等にも参加しているも、今年度は、施設の駐車場等でバーベキューや花火大会を行っている。	例年は盆踊りやコンサート、冬季には初詣などにも参加している。今年度はコロナ禍で外出が難しい状況だが、施設敷地内でのバーベキューや花火大会を楽しんでいる。また、普段から玄関先やバルコニーで外気浴をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族から一定のお小遣いを預り、初詣に行った時の養錢やおみくじ、訪問美容代等を自由に使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人等からの電話を取り次いだり、本人の希望で電話を掛けたり、手紙が届いたときには、直接渡すよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな窓からは季節を感じられる。共有空間には、四季を感じるよう工夫している。利用者に不快や混乱をまねくことがないよう配慮し、居心地よく過ごせるよう取り組んでいる。	大きな窓からは周辺の木々がよく見え、自然を感じる雰囲気となっており、季節の装飾品や写真なども飾られている。空気清浄機も配置され衛生面にも配慮するなど、過ごしやすい空間づくりを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2か所の共有スペースには、テーブル、ソファ、テレビ、雑誌等を置き、思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人や家族と相談しながら、使い慣れた寝具や、家族の写真、本人が好みの飾り等を活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	温湿度計とクローゼットは備え付けており、それ以外の家具は利用者が使い慣れたものを持ち込んでいる。その他にテレビやラジオ、雑誌や写真など好みのものが置かれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は、安全で自立した生活ができるようにバリアフリーになっている。廊下、トイレ内には手擦りを設置し、表札で自室が分かるように工夫している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503510		
法人名	医療法人中山会		
事業所名	グループホーム夏桜 2階 そよ風		
所在地	札幌市厚別区青葉町16丁目2-26		
自己評価作成日	令和2年9月24日	評価結果市町村受理日	令和2年11月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvsoCd=0170503510-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西0
訪問調査日	令和2年10月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> 職員は、利用者を人生の大先輩として敬い、尊厳を遵守した支援に努めている。 利用者本人のできるごと、やりたいことに注目し、本人本位のケアプラン作成に取り組んでいる。 日課に、歌、演歌体操、嚙下体操、口のエクササイズ等の活動を取り入れている。 家族の来訪や面談時に、生活の様子や変化を詳細に伝え、意向や要望を活かした支援に努めている。 虐待・身体拘束・不適切行為等対応マニュアルと接遇に対する遵守事項を唱和し、実践に繋げている。 地域の一員として、地域行事へ参加し、住民との良好な関係が続いている。 地域のボランティアを導入し、事業所行事や災害時の協力体制を構築している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階そよ風)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念はカンファレンスで唱和している。理念に沿ったケアを提供できるよう日々努めている。毎年夏桜の部署目標を作りユニットごとに毎月評価し、発表している		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の回覧物を受け取っている。夏桜の広報を配っている。新型肺炎の為現在は交流は休止しているが休止前は月に一度の交流があった。地域の一員として参加できる行事には参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏桜の広報を地域に配り、日常の生活の様子や行事の様子を知らせている。年に一度地域の方を呼び、交流会を開いている。運営推進会議で事例報告をし、認知症の方への理解を深めてもらっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は新型肺炎流行の為書面会議である。書面を閲覧する形となっている。ご意見は特にはない。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何かあれば市役所に直接出向いて相談している。現在は新型肺炎流行の為、区の管理者会議は行われていない		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止の具体的な行為を示したマニュアルを朝の申し送り時に唱和している。3か月に1度身体拘束適正化委員会を開いている。年に2度身体拘束適正化のための内部研修を開いている。玄関は安全の為施錠しているが入居者が出掛けたい時は同行している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人虐待マニュアルを毎朝唱和している。内部研修で虐待について学んでいる。身体拘束適正化委員会で不適切なケアについて話し合っている。職員一人一人が防止に努めている		

グループホーム 夏桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階そよ風)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で権利擁護について学んでいる。現在制度を利用している方が2名おられる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の時は十分な説明をし、理解、納得を図っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナウイルスの流行で面会の制限をしているため、ご家族等の意見や要望を電話や決められた場所でお聞きしている。その内容はカンファレンスや個人ノートに残し運営に反映させている		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全体会議、ユニット会議があり意見を発信する		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与は10年以上勤務している職員がいるので特別処遇手当が支給されている。有休を取得出来ている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人は法人研修を策定し職員が受講できるようにしている。代表者は内部研修を計画し、働きながらトレーニングしていくことを進めている。外部研修を受ける機会の確保をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は同業者との集まりに参加して情報交換を行っている。職員は厚別区のグループホームの勉強会に参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階そよ風)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い本人の要望を聞いている。センター方式を利用し本人の思いを探り、安心できる生活が確保できるよう関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みからサービス利用開始する段階で家族の困っている事、不安なこと、要望に耳を傾け安心できる関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている支援を見極めて対応できるように努めている。他のサービス利用も含めた対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事活動は職員と一緒にやっている。暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルスの為面会は自粛しているが、バルコニーからの面会、毎月のお便りに写真を添えるなど様子を知って頂けるよう努めた。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の来訪は新型コロナウイルスの影響だけではないが減ってきている。お手紙などは届いているので直接お渡ししている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、座席の工夫、職員の介入などで利用者同士が良い関係を保てるよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階そよ風)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、移行された施設を訪問し、これまでの関係を大切にしよう努めている。退去したご家族からお手紙などを頂くこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを傾聴したり、モニタリングをしたり、カンファレンスで話し合ったりして本人本位のケアが出来るよう努めている。また、センター方式も活用している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族やご本人にお聞きしたり、サービス担当者会議を開催したりし、これまでの生活歴の把握に努めている。また情報は記録に残し職員で共有できるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りや情報共有している。カンファレンスやモニタリング時に現状の把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族や本人にもケアプランの説明やサービス担当者会議に参加してもらい意見をお伺いしケアプラン作成に活かしている。カンファレンスで3か月に1度モニタリングをし、現状に即したケアプランを作成するよう努めている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に残している。記録は関わった職員が行う。現在はパソコンが使用され、まだ慣れていないのでミスも多い		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時に生まれるニーズに対応するため当該法人の他部署や医療関係等と連携を密にとり柔軟な支援サービスが出来るよう努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在町内行事には参加出来ていないが、町内、青葉福祉推進協議会、寿楽会、特養等の資源は回覧版等で把握している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体協力連携期間による訪問診療が月に1度あり全員が受診している。毎週訪問看護があり、訪問歯科(衛生)もある。受診内容を個人ごとの医療機関受診記録に記載し共有している		

グループホーム 夏桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階そよ風)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週訪問看護で利用者の体調で気になることがあれば相談し、訪問日以外でも連絡をすると適切な指示を受けることができる。また外来看護師にも相談している			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時は担当看護師に日常生活動作の必要な情報を伝えている。面会時には様子を聴いたり、退院時には看護サマリー等で情報を受け取り、電話等でも相談できる関係を行なっている			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化した場合の対応に関する指針」を説明し、同意書に署名、捺印を頂いている。重度化した場合は事業所で看取りはしてませんが終末期のあり方についてご家族様の意向を汲み取れるよう医師、訪問看護師と共に支援に取り組んでる			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	昨年は内部研修の中にAEDの使い方、感染予防としてノロウィルス、インフルエンザ研修、今年は新型コロナウイルス感染防止対策として事業所独自の取り組みを作っている			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、夜間を想定して地域の方も交えて避難訓練を行っている。水害、地震等に関して今年はシュミレーションと〇×クイズ、三択クイズを実施しました			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	朝の申し送りで虐待、身体拘束、不適切行為、接遇に対する遵守事項を唱和し、一人ひとりの人格を大切に言葉かけや対応をしている			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るように努めているが中には言えない方もいるので職員が思いを汲み取り、本人に寄り添いながら自己決定して頂いてる。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護側の都合を優先していないが時として介護側中心になっている時もある。ケアプランに沿っての対応と一人一人のその日のペースを大切にしている			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で出来る方にもアドバイスを入れたり、できない方には職員が支援する。また月1回訪問美容を利用している			

グループホーム 夏桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階そよ風)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様には配膳前のテーブル拭き、食後のお盆拭きをして頂いている。畑では毎年野菜作りをし、収穫できた物は日々の食事の食材に加えて召し上がって頂いている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや摂取量は献立表で確保されている。個々の水分量、副食の大きさは違うので工夫しながら提供している。入居者様はコーヒーが好きなので時々提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行ない、出来ない方には介助で行っている。毎週2/3の利用者が訪問口腔ケア利用され、月1回訪問歯科を利用される方がいる。随時衛生士さんからアドバイス等を頂いている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	訪問看護師と相談しながらその方にあった排便コントロールをしている。朝食後はトイレにお連れし自排便が出来るようにお腹をマッサージしたり、時間毎にトイレ誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の牛乳、水分量確保、歩行運動、マッサージを行なっているがそれでも排便がない場合は薬に頼る入居者もいる。また訪問看護師に連絡を取り指示をうけている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午後の時間帯での入浴となっており、その中で出来るだけ入浴の順番は選べるようにして、入りたくない方は別の日に入浴できるように工夫している。一人で入浴したい方もいるので脱衣場から見守りをしたり、個々に沿った支援をしている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前にお話ししてる方、テレビを見てる方の習慣を大事にしてタイミングを見て声掛けや臥床介助を行う。日中、車椅子の方にはベッドで休息して頂くように声掛けしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬情ファイルがあり、最新の薬情と古い薬情を整備している。薬の変更等があれば申し送りや個人ノートに記載している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみやテーブル拭き等その方の出来ることを手伝って頂き、感謝の気持ちをお伝えしている。時々みなさんとコーヒーを飲んだり、職員の手作りおやつを食べていただいている。		

グループホーム 夏桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階そよ風)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は新型コロナウイルスの影響で外出は行っていないが、テラスや玄関先での外気浴などを行ない、外の空気に触れて頂いている。本年は玄関前でのバーベキュー、駐車場での花火大会をおこなった。本来は年4回ご家族や地域の方々とお外出行事を楽しまれている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理は職員が行っているが、全員がお小遣いをもっている。初詣などのお賽銭もお小遣いから出して頂いた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話でご希望があればご本人とお話しして頂いている。お手紙はご本人にお渡ししている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度に気を付けている。大きな音を出さないよう気を付けている。壁に季節感を取り入れた装飾をしている。時には職員と入居者が一緒に作成をしている。廊下には広報や写真をかざり、楽しんで頂いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールだけではなく、ワークスペースや居間などがあり、それぞれの過ごし方が出来るように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時使い慣れたものをお持ちいただき継続して使っていただいている。写真を飾ったり、アルバムを見たりなど居室で一人になっても安心して過ごせるようになっている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、手摺りは廊下や浴室、トイレ等すべての場所についている。居室前には表札があり、写真や可愛い小物を飾りして自分の部屋がわかるようになっている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム夏桜

作成日 令和 2年 11月 1日

市町村受理日 令和 2年 11月 6日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握につとめる。困難な場合は本人本位に検討する	一人一人の思いや暮らし方の希望、意向の把握に努める為にB3シートを活用し、施設サービス計画書の第一表の本人の思いや意向を充実させる	B3シートを年に1回更新して、変化がある場合は色分けで記入し、施設サービス計画書の第1表につなげる	1年
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。